

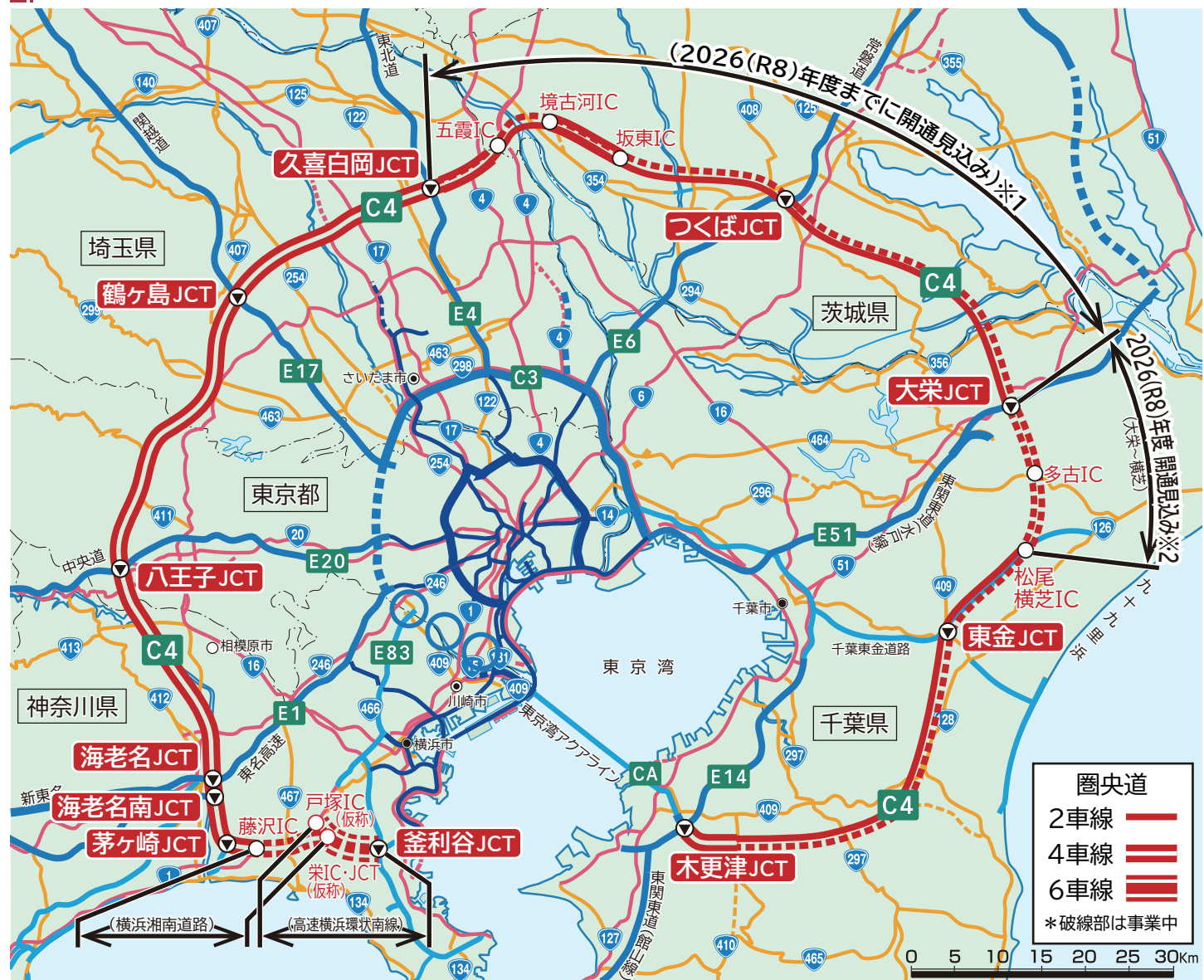
生産性を向上する道路ネットワーク

豊かで快適な暮らしを支える道路ネットワークの整備を進めています。

圏央道

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)は、都心から半径約40～60kmの位置に計画され、3環状道路の一番外側に位置する延長約300kmの高規格幹線道路です。圏央道は、都心から延びる放射状の道路を環状につなぐ道路で、都心部の通過交通の抑制と流入する交通を分散し、渋滞の緩和による走行時間の短縮や周辺地域の環境改善効果など、多くの役割を担います。

圏央道の整備状況



神奈川県内の圏央道

4つの機能(経済のみち、くらしのみち、命のみち、歴史・文化のみち)をもつ圏央道の整備を進めます。

神奈川県内の圏央道については、さがみ縦貫道路・高速横浜環状南線・横浜湘南道路の3路線で構成され、中央自動車道・東名高速道路や整備が進められている新東名高速道路と東京湾岸地域等との連携強化を図る自動車専用道路です。

圏央道の開通により、広域的な高速道路ネットワークが形成されると共に、国際競争力と成長を支える道路として、沿線の企業立地等による地域産業の活性化や、広域的な観光交流の実現による新たな観光需要が期待されます。

また、国際コンテナ戦略港湾である京浜港(東京港、川崎港、横浜港)や羽田空港(国際空港)を支えるネットワークが構築されることにより、物流の効率化にも貢献します。

なお、さがみ縦貫道路については、平成27年3月8日に全線開通し、現在高速横浜環状南線及び横浜湘南道路の整備を進めています。

神奈川県内の圏央道の整備状況



WISENET2050 の概要

“2050年、世界一、賢く・安全で・持続可能な基盤ネットワークシステム”をWISENET(ワイズネット)※と位置づけ、その実現のための政策展開により、新時代の課題解決と価値創造に貢献します。

WISENET: World-class Infrastructure with 3S(Smart, Safe, Sustainable) Empowered NETwork



ワイズネット WISENET の要点

○シームレスネットワークの構築

サービスレベル達成型の道路行政に転換、シームレスなサービスを追求します。

○技術創造による多機能空間への進化

国土を巡る道路ネットワークをフル活用し、課題解決と価値創造に貢献します。

求められる役割

- 経済成長・物流強化
- 交通モード間の連携強化
- 自動運転社会の実現
- 道路の枠を超えた機能の高度化複合化
- 地域安全保障のエッセンシャルネットワーク
- 観光立国の推進
- 低炭素で持続可能な道路の実現